



写真⑤ 読んだ絵本を記録するノート。学年が上った際も持ち上がって、次に読む絵本を選ぶ際に参考にしています。写真⑥ この日は11月に行われる細野小学校の鑑賞教室の打ち合わせ。教室の時間は2時間。連絡協議会会長の坂下さんにもアイデアをもらいながら、準備を進めます。

「私たちもそうだけど、いい絵本には子どもたちは間違いなく飛びつくよね。」

子どもたちにいい絵本に出会ってもらうようと、学校で読んだ絵本は、クラスごとに記録して見返し、今まで子どもたちが触れたことがない絵本を選ぶようにしています。また、朝の一番にあるからこそ「暗い本は読まない。楽しくなる、がんばろうと思えるような絵本を選ぶこと心掛けていく」といいます。

**子どもたちの思い出として「読みきかせ」は確かに残る**

「子どもたちは小学校から読みきかせに慣れていて、聞く力がすごい。聞く姿勢に入って待ってくれている、そのあまりの真剣さに圧倒されてしまうこともあるそう。」

読みきかせを聞いている子どもたちから直接「楽しかった」という言葉を書くことはなかなかなくても、「教室に入るときにニコッとしたり、帰るときに手を振ってくれたり、その反応がうれしい」と話します。

メンバーの中には、仕事中にアルバイトの高校生とやり取りをする中で、突然「読みきかせをやっていますか」と声をかけられた経験も。「顔を覚えてなかったけど、声でわかりました」と言われたそうです。

「よそ見したり、違うことを考えてたんじゃないかって、ちゃんと声を聞いてくれていたんだと、そのときはすごくうれしかったです。」

読みきかせは、子どもたちの楽しい思い出として、その心に確かに残っています。

**活動を続けることは難しいでも、やれることをやる**

今年で活動20年目を迎え、以前は10人以上いたメンバーも転勤や仕事などで徐々に減少。それでも、明るく楽しく活動する様子が印象的なママーズ。「まずは普段の読みきかせを大事に。そして、鑑賞教室やクリスマス会をお願いできませんかと依頼されたら「はい、よろこんで」。ママーズはいいえとは言わない」と笑います。

同時に、依頼を引き受けられるのは、いろいろな人が手伝ってくださるからと話します。11月に依頼されている細野小学校の鑑賞教室では、連絡協議会の協力に加え、保護者の中からも参加してくれる人がいるといいます。

「この団体も一緒だと思いうんですけど活動を引き継いでいくってなかなか難しい。難しいけれど、みんなでやれることをやりましょう」と、笑顔の絶えないママーズの活動は続きます。



10月1日に行われた細野中学校での読み聞かせの様子。中学校で月2回読み聞かせを行っているところは珍しいといえます。

## それぞれの団体、それぞれの読み手が「読みきかせ」に込める思い

市内にある各読みきかせ団体では、保護者や地域のボランティア200人以上が参加しています。参加者は団体によって年代や人数、活動への思いもそれぞれ。細野地区で活動する「細野ママーズ」、野尻地区で活動する「野尻町読み聞かせグループたんぽぽ」、三松小学校で活動する「わたぐも絵本の会」の3つの団体に読みきかせの楽しみなどを聴きました。



子どもたちの楽しい思い出として「読みきかせ」が心の中にあるそれがうれしい

### 細野ママーズ

(後列) 前原直美代表、迫田紀代子さん、井上陽子さん (前列) 園田明美さん、大牟田佐枝さん、坂下一美さん。その他、齋藤順江さんを加えた7人が中心メンバー。細野中学校での月2回の読みきかせや、細野小学校で保護者が中心となって行う読みきかせのサポート、細野小学校での鑑賞教室の実施など、幅広く活動しています。

**こんなに楽しいことなら「子どもたちにやってあげたい」**

平成16年、細野小学校の保護者を中心に活動が始まった「細野ママーズ」。当初は、「素人で自信がない」「人前で絵本を読むのは恥ずかしい」と感じていたところ、連絡協議会の勧めで既に読みきかせの取り組みを始めていた南小学校を見学し、驚いたといいます。

「こんな楽しいことをやってるのが。自分たちの子どもや地域の子どもたちにやってあげたい。」

「上手くいくか分からないけど、とにかくやってみよう」と、ママーズの活動はスタートしました。

その後、細野中学校でも活動を開始。現在は、細野中学校で月2回朝の時間に読みきかせをするほか、保護者が中心となって細野小学校で行われる読みきかせのサポートに加え、昨年から細野小学校での鑑賞教室の依頼を受けるなど、その準備に大忙しです。

**子どもたちがいい絵本に出会えるように**

連絡協議会を通じてさまざまな絵本講座や研修などを受けるなかで、絵本の世界の奥深さを知り、絵本が大好きになったというママーズの皆さん。

# わたぐも絵本の会

「わたぐも絵本の会」は、年10回ほどの朝の読みきかせや、クリスマスおはなし会、6年生対象のお別れおはなし会などを行っています。

会員33人全員が保護者で、うち2人がお父さん会員。仕事前に読みきかせに来てくれたり、未就学児を連れて読みに来てくれる人もいます。

クリスマスおはなし会やお別れおはなし会では、読みきかせだけでなく大型紙芝居や朗読劇などもやります。みんなで集まって準備して文化祭みたいで楽しいです。保護者同士、友だちの輪も広がります。

先日は校長先生から「読みきかせのある日はスタートが違う。子どもたちが落ち着いた状態で授業が始められるからありがたい」との話があり、うれしくなりました。

わたぐも絵本の会では、なるべく読み手が自分の子どものクラスで読めるように割り当てをしていて、会員の中には「なんでお母さんは来てくれないの、

お母さんも読みきかせに来てよ」と子どもに言われて参加した人も。子どもたちは、自分のお母さんや誰かのお母さんが読みに来てくれるとうれしいみたいです。

よく図書館に絵本を選びに行くのですが、どんな本がいいかなど考えて気が付くといつも1時間ぐらいい経ってしまっています。でもそんな時間も結構楽しかったりします。この前は、試しに同じ絵本を3つの学年で読んでみましたが、それぞれ反応が違ってそれもおもしろかったです。



## 保護者同士の友だちの輪も広がります

# 野尻町読み聞かせグループたんぽぽ

## 「読みきかせ」を通じた子どもたちとのつながりは「宝物」

「野尻町読み聞かせグループたんぽぽ」は会員14人で、野尻の保育施設や小・中学校で活動しています。

読みきかせをすると、小さい子は特に目をキラキラさせて飛びついてくれます。「おもしろかった」という反応や表情がじかに伝わってくる時、読み手も本当にうれしいです。

私は子どもの頃に贈ってもらった本のことは今でも忘れられません。「こんな本があった」と少しでも子どもたちの心に引かかって、思いがけないところでふっと記憶がよみがえってくればいいなと思います。

中学生への読みきかせは思春期でちょっと難しかったりしますが、季節のお話をしたりしながら気分を上げて読んでいます。最近は十五夜の話をしました。私たちのような地域のおばちゃんや子どもたちに「今日は十五夜だよ」と教える、そんなちょっと風情を感じられる場になるといいですね。



子どもたちはいろいろな場所です。読みきかせしてくれるおばちゃん」と呼んでくれます。読みきかせがなければそういう会話も接し方もできない。この関係は「宝物」です。

若い方や保護者の方にぜひ読みきかせに関わってほしいですが、声掛けすると「難しそう」と敬遠されがちです。でも難しく考えず、自分の子どもや孫に読むように読んでもらえたらいいんです。

子どもたちのためだけでなく、自分自身が満たされる、成長できるというのが読みきかせの大きな魅力だと思います。

### VOICE 各団体で活動する皆さんに「読みきかせ」について

### 一言いただきました！

子どもたちに本を読むと想像以上にいろんな反応があります。楽しい時間です。

色々な刺激をもらえます☆

たんぽぽサークル (南小学校) 代表 和田真紀子さん

子どもたちと一緒に「ワクワク」、「ドキドキ」、「感動」の絵本の世界を楽しみませんか？読みきかせボランティアの方募集中です！！

心温まるお話の世界を楽しみませんか？

永久津お話の会 (永久津小・中学校) 代表 有村栄美子さん

笑顔で一日のスタートです！！

読む人も 聞く人も えがお

小林子ども遊学会 (小林中学校) 代表 宇藤山香さん

学校、子どもたちとつながり、仲間づくりにもなります。一緒にほっこりとした朝時間を過ごしましょう。

絵本で繋がる笑顔の輪

三松中学校読み聞かせの会 (三松中学校) 代表 田原恵さん

本との出会いで心豊かに。一緒に読みきかせを楽しみませんか！?

絵本をよんで みんな笑顔に

ゆめいろ文庫 (西小林小・中学校) 代表 佃一恵さん

子どもたちがいつも楽しみに待っています。鑑賞教室もありますので、ぜひご参加ください！

子どもが喜ぶ朝 親は楽しむ 朝の読みきかせ

細野小読み聞かせの会 (細野小学校) 代表 森永真奈美さん

絵本は心を豊かにしてくれます。ぜひ、一緒に読みきかせをしませんか？

大人も子どもも 絵本を 楽しもう

かしのき読んみろ会・東方中学校読み聞かせの会 (東方小・東方中学校) 代表 内木場靖代さん

子どもたちがたくさん本を手に取り、読書意欲を高めるきっかけとなって欲しいと願いを込めて、読みきかせを行っています。

読み聞かせをして、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしませんか？

くすの木文庫 (小林小学校) 代表 堀添博子さん

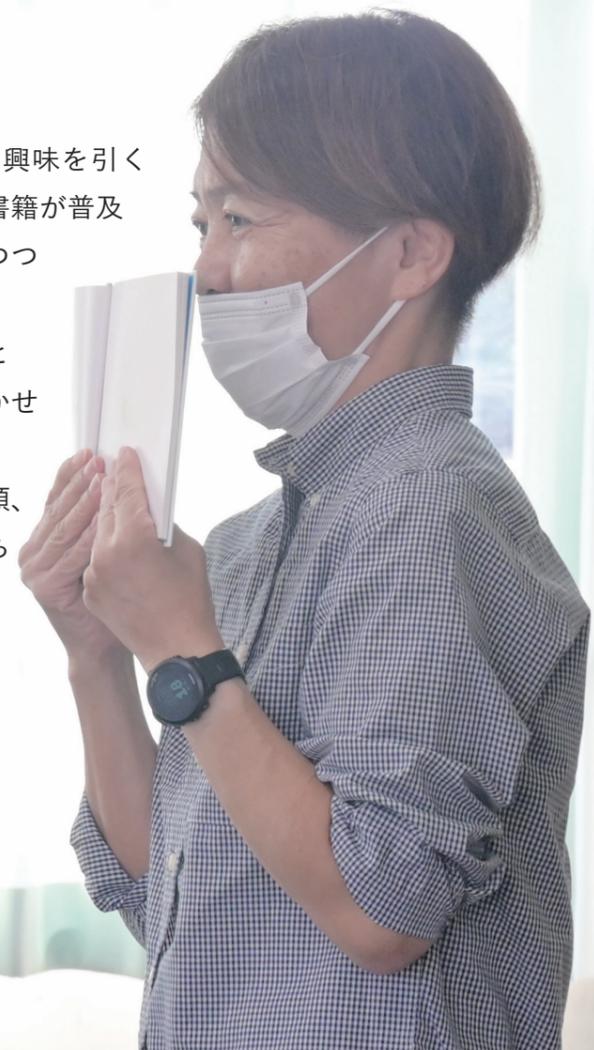
# 未来を温かく照らす力が 「読みきかせ」にはきっとある

ゲームや動画サイト、SNS。子どもたちの興味を引くものがあふれる現代。読書率が低下し、電子書籍が普及するなど、紙の本に触れる機会は徐々に減りつつあります。

そんな時代の中でも、紙の絵本を広げ、仲間と一緒に同じ物語、同じ時間を共有する読みきかせは子どもたちを夢中にさせます。

そして、読みきかせがもたらすよろこびや笑顔、人と人とのつながりは、これからの子どもたちの未来だけでなく、読み手の未来も明るく照らしてくれるはず。

読みきかせがさらに広まり根付くことで、優しく温かい小林市になることを願って。



## 豊かな心と郷土を愛する心を育む 「読みきかせ」の輪

小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会の皆さんには、平成18年の設立以来、市内小・中学校での読みきかせ活動にご尽力いただいています。

子どもたちへの読みきかせは、言語の発達や読解力の向上などの学習の基盤を築き、想像力や表現力、豊かな心など、将来にわたって必要とされる資質や能力を育むとされています。

また、読み手である大人も、絵本の世界観を感じながら子どもたちと過ごすことで、気持ち落ち着き、日々の豊かな生活につながるような読みきかせの持つ力や効果が認知され、年々、その活動が大きく広がっています。

以前私が勤務をしていた細野小学校でも、定期的に地域ボランティアの皆さんに読みきかせを行っていただけていました。読みきかせのある日は、目を輝かせながら絵本を見つめる子どもの姿と、優しく語り掛ける読み手の姿、そして、絵本の世界で満たされた温かな教室の様子を見ること

ができ、私自身も読みきかせの魅力に引き込まれたことを思い出します。

現在、教育委員会では、学校教育の充実や郷土愛を育むために、学校と地域との連携・協働による活動を進めています。読みきかせもその活動の一つであり、読みきかせによる地域の皆さんとの触れ合いを通じて、子どもたちのふるさとに対する深い愛情を育むことができると思っています。

これからも、連絡協議会の皆さんと一緒に、小林市での読みきかせの輪を広げ、子どもたちの豊かな心と郷土愛を育む活動に取り組んでいきたいと思っています。



小林市教育委員会  
おおやま かずひこ  
大山 和彦 教育長

### 「読みきかせ」の仲間 あなたも加わりませんか？

小林市小・中学校「読みきかせ」連絡協議会では、読みきかせを行うボランティア仲間を募集しています。人前に出るのが苦手な人や未経験の人も、研修会もあるので安心して活動できます。子どもたちが目をキラキラ輝かせて笑顔になる活動に、一緒に参加してみませんか。どなたでも参加できます。ご連絡をお待ちしています。

■問 市立図書館 Tel 22-7913

### 絵本講演会を開催します

児童文学作家の富安陽子先生を招いて、読みきかせボランティアや児童書に興味がある人を対象とした講演会を開催します。先生のお話から、本の楽しさをさらに感じてみませんか。

■日時 12月1日(日曜) 13時30分～(開場13時)

※当日は休館日です

■会場 市立図書館本館2階会議室

※ハローワーク第2駐車場をご利用ください。

■参加費 無料 ■定員 70人(定員になり次第締切)

■申・問 市立図書館 Tel 22-7913